

○6番（上原 君代君）            こんにちは、日本共産党の上原君代でございます。

今、国会の参議院では安保法案が審議されています。歴代の法制局長官や多くの憲法学者が違憲と言っていますが、東員町議会は6月議会で安全保障関連法案の廃止を求める意見書を国会に提出することができました。8月30日には北海道から沖縄まで、若者から主婦、大学生から法曹界、宗教界、芸能人など、組織だけではなく、インターネットなどでつながった人たちが日本の知性と良心を結集した形で声を上げ、国会議事堂周辺で12万人、全国1,000カ所以上の会場で多彩な集会、デモパレードが行われました。

私はその日、午後1時半から桑名市の集会に参加した後、4時から日本共産党東員町議団といなべ市議団の合同の街頭宣伝に参加しました。若者を戦争に行かせたくはありません。命を大事に、一人一人を大切にす政治を進めるために、これからも住民の立場に立った活動をしていきたいと思っていますので、よろしく願います。

今回は3点の質問をさせていただきます。

1点目の学童保育所について伺います。

子ども子育て新システムの一環として、今年の6月に、県がひとり親家庭の扶養手当受給世帯の学童保育所に通っている児童の保育料の助成制度を追加、月3,000円、これは県と市町の折半ですけど3,000円としました。新年度から少し時期がズレたため、実施を決定している市町が少ないような報道があり、東員町はどうなっているのかなと思って窓口で確認したところ、東員町としては今のところ実施しないということでした。

東員町の学童保育所へ通っている対象児童は32世帯、42人います。県が制度として実施するのだから、町としても実施してほしい旨を伝えましたが、その後、この件について話し合われたのか、その経過をお示してください。

2つ目に、三和学童保育所は定員36名に現在32名が在籍しています。また、イオンの開業以来、目の前に学童保育所がありながら、学校からなかなか学童保育所へ横断ができない、また、危険で外へ出られない状況があるということでした。定員が満杯に近いことや危険度から考えても移転の必要性があると考え、担当課と対話をしましたが、その後、対策は考えているでしょうか。

ぜひよろしく願います。

○議長（山本 陽一郎君）            松下生活福祉部長。

○生活福祉部長（松下 文丈君）            学童保育所について、1点目のご質問にお答えさせていただきます。

この学童保育所への助成制度につきましては、三重県の子育て支援課から平成27年度放課後児童クラブ活動事業費補助金のうち、放課後児童クラブひとり親家庭利用支援事業の名称で、児童の安全・安心な居場所を確保するとともに、経済的負

担を軽減するため、その利用料を減免する補助事業であり、6月の末時点では県から事業内容について示されていない状況でございました。

県はその後に、放課後児童クラブ活動事業費補助金交付要領を平成27年度から適用するという一部改正を行いまして、市町への今年度の見込み額について調査依頼がございました。この補助事業の交付申請をいただくために、県に見込み額を報告させていただいたところでございます。今後、補助申請の手続きを進め、利用支援を行ってまいります。額が確定次第、補正予算対応とさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

また、就学援助を受ける児童のいる世帯への学童保育所保育料の減免措置につきましては、これからの県や他市町の動向を踏まえ、方向性を打ち出していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして2点目の三和学童保育所の移設や定員の問題にかかる対策につきまして、お答えさせていただきます。

このことにつきましては十分認識しており、三和小学校内の教室への移動や、同じく小学校の駐車場などの空きスペースなど、適当な場所に移設できないか、現在関係各所と協議しております。また、建設補助金の申請につきましても、引き続き県へ働きかけ、確定次第、早急に移設等を進めていくことはもちろんのことですが、まずはできることから行っていきたいということで、現在保育所内の壁を撤去し、児童への目が行き届きにくい状況を改善し、見守りなどの安全確保につなげるよう、今回9月補正予算を計上させていただいております。

いずれにいたしましても、問題解決に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） ありがとうございます。

学童保育所の助成制度は、その後の県からの連絡もあり、実施される見通しという、平成27年度からということで、ほぼそういうことで実施されるということでうれしく思います。

さっき既に私が言うまでに、これは基本的には県としてはひとり親家庭の児童扶養手当を受けている世帯ということだったんですが、既に今の部長の話で、就学援助を受けている児童もとするとは、はっきりは今言わなかったように感じますけど、これも対象に考えていただけるということを伺いましたので、こういう点、本当に就学援助というのは、やっぱり二親がそろっていても収入が少ない家庭の子どもたちが受けている就学援助ですので、こういう子たちへ学童保育所の補助も入ると、家庭としては助かると思っておりますので、重ねて強く実施への要望をいたします。

三和学童保育所の件ですけど、確かに今言われたように、今回の補正で施設修繕費ということで出ております。そういうことでは私は、本当に東員町としては子どもを大切にしてもらっているなということは思っております。

でも移転というと、まだ稲部学童保育が今年2月に完成して、お金を使ったばかりだから、自分ところがお金を使うだけでなく、やはり補助を使いたいということで、補助申請をして、申請は毎年してもなかなかということは、聞き取りの時に聞きました。たしか国の補助に対しては、前の笹尾のバンブーキッズ西が移設してから今回の稲部学童保育所ができるまでには4年、私もきちっと覚えてないんですが、4年は確実にたっておりますので、やっぱり4～5年は必要かなと思います。けどやっぱり今回イオンの関係で、本当に車の往来が激しくなっておりますので、少しでも早くと思っておりますが、そのところはいかがですか。

○議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

○生活福祉部長（松下 文丈君） お答えさせていただきます。

やはり三重県下、全県下におきまして、学童保育所の整備補助金というのは使われると思っておりますので、東員町だけ早急にというのは、なかなか難しいものもございませうけれども、しかし早急に移設といいますか、そういうことも検討させていただく中で、県のほうに強く働きかけていきたいなというふうに考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） すぐには私も難しいかなという気はしております。けど毎年の補助申請をして、そしてまた場所のことも説明しながら、少しでも早い移設の実施ができるようお願いして、次に移ります。

2点目の発達支援室について伺います。

共産党議員団は発達支援室の拠点に関していろいろと心配して、担当窓口と話をしたり、委員会などで発言したりしてきました。一方、この8月10日に実施された発達支援室の人事異動に関し、行政として発達支援室の中身をどう考えているのか懸念します。

担当課でいろいろと事情は伺いましたが、町長は障がいのある子を早く発見し、早く手当ですることで、障がいの程度を少しでも緩和するようにしますというような肝入りの公約をしました。まず該当の教師、保育士2人があすなろ学園で1年間みっちり勉強して、発達支援室の開設となったわけなのに、たった2年少し経過しただけで、また年度途中の8月に、中心の2人のうちの1人を外すとは、普通では考えられないことです。器を作っても中身、心が伴わないでは公約が泣くと考えます。

町長、いかがですか。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 発達支援室についてのご質問にお答えをいたしますが、今回主に教育委員会の人事に関することですので、私からは現状をお話をさせていただいて、事情説明を含めた詳細につきましては、教育長から答弁をさせていただきたいと思えます。

まず現在、発達支援室につきましては、私の公約にもありますように、その拠点を整備することが必要不可欠と考えております。そんな中で療育事業の環境整備につきましては、今、関係各課に検討を指示をしているところでございます。

その中で、ご質問の8月の人事異動でございますけど、大変ご心配をかけて申しわけなく思っておりますが、今回は教育委員会から、緊急事態が生じたということで、どうしてもという要請がございました。未来への投資として、子どもの権利条例に沿った施策の推進と、安心して子どもを産み育てられる環境を充実させていくことが、持続可能な東員町しあわせづくりプランのかなめでありまして、発達支援事業の療育はもちろん、保育も大変重要なものですから、教育委員会の申し出というものをいろいろ協議させていただいて、決断をさせていただいたということでございますが、今後も公約の推進に遭進をしまいたいというふうに思っておりますが、緊急事態ということで、教育長から説明があると思うんですが、ご理解を賜りますよう、よろしく願いを申し上げたいと思えます。

○議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 上原議員のご質問にお答えをいたします。

まず初めに、大変今回の人事異動に関しましてご心配をおかけしております。

この人事異動について、お答えをいたします。

町長部局の人事異動に関しては担当部局がお答えするのが本意でございますが、今回の異動では教育委員会もかかわっておりますので、私のほうから、その経緯を説明をさせていただきます。

まず異動につきましては、該当幼稚園・保育園の職員体制が大きくかかわっております。具体的な状況といたしましては、その園では、担任をしている期限つき職員の方2名が5月末で退職する状況になりました。補充の人員確保に私どもは全力を尽くしておりましたが、確保できない状況が続きました。さらに、それに重なるように6月末で1名退職という事態が起こり、園運営が円滑に進まない状況におちいりました。

教育委員会といたしましては、担任が不在になる状況をなくすために、フリー勤務の期限つき職員を急遽担任に配置がえしたり、子育て支援センター勤務の再任用職員を配置転換することで対応をしました。また、引き続き、期限つき職員の確保を強力に進めましたが、担任が1名確保できない厳しい状況が続いております。その間、子どもの危機管理上の問題発生も予測されました。

そしてそのような中、7月になり、副園長職の者が長期療養する状況が加わってしまいました。教育委員会として、園運営が厳しい状況におちいる寸前であるという危機感を持ち、このような状況を改善すべく、町長部局と連携を図りながら方策を模索いたしました。

そして、発達支援室には多大なご迷惑をかけることを承知しながら、苦渋の選択ではありましたが、今回の異動をお願いをいたしました。

今回の異動では、知識と経験を生かしていただける再任用職員の元園長経験者を発達支援室に配置し、少しでも子どもたちに影響が出ないように努めました。

また、アドバイザーが現在一人となりましたが、発達支援室長と一致協力して、療育や保護者支援、相談等をこれまでどおり行っていくように発達支援室をお願いをしているところであります。

教育委員会といたしましては発達支援事業の継続的な発展を目指し、アドバイザーとして活躍できる人材の育成に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） いろいろな事情があることは聞きました。しかし何を大事にするかをはっきりして、優先順位を決めるべきだと思います。人事異動になった保育士は拠点もはっきりしない中、ジプシーのような状態の中でも保護者の方たちの信頼を得て、8月の相談日程も決めていました。保育園には優秀な保育士たちは大勢います。しかしあすなろ学園で学び、三重発達支援システムアドバイザーとしてCLM、気になる子のチェックリスト三重をきちんと実践できる専門的知識を持った人は2人しかいないわけです。

公約で障がい児者の支援を前面に上げて、あすなろ学園へ派遣を断行した町長に私は感心していました。私のこういう考え方、町長、一番優先は何ですかということ、おかしいと思いませんか。今回のことを絡めましてどうですか。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） 私もこの話をいただいた時に非常に厳しいなというふうな思いは持っておりました。しかしいろいろ事情を聞いていくと、保育園のほうも非常に困っておると。教育委員会いろいろ手を尽くしていただいたんですが、その経過、僕は余り知らないのですが、ずっと手を尽くしていただいていたようですが、最後のだめ押しが副園長さんが入院されたと、手術されたということが大きかったようですが、保育現場が回っていかないというような訴えをいただいた。

確かに発達支援室、ものすごく大事なところでございますけれども、保育の場というのも軽く考えるわけにもいきませんし、いろいろ悩みましたし、庁内でも、ほかの方法がないのかとか、いろいろ教育委員会ともお話をさせていただきましたけ

れども、どうしても副園長さんということも含めて、この方法しかないというようなお話をいただいて、苦渋の決断でございましたけれども、決断させていただいたということでございます。本来なれば非常に私としても、思いとしてなかなか受け入れ難いものはございますけれども、これは柔軟に考えないといけないなということに思い至りまして、こういう状況になったということでございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） 本当に今回、保育園にいろいろ事情があったとはいえ、私としては残念に思っております。専門的知識を持った人が、こういうとき多くいればよかったんですけど。だからこのような事態に備えるためにも、来年度新しい人をあすなろ学園に派遣して、そういう人材を育てるということを要望したいのですが、その点は町長、いかがですか。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） 来年度にもそういう方向で考えていきたいと思っておりますが、適切な人材が見つかるのか見つからないのかということもあると思うんです。それは教育委員会、教育長ともご相談をさせていただきながら、できるだけその方向で考えたいなど。決して女性ということでもないのかなど。男性も当てはまるのかな。そういうことで少し広く人材を探してみ、前向きに検討をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） ぜひそのように考えていただきたいと思います。

次に教育長にお聞きします。いろいろ細かいことは、また保育園のほうで話していきたいと思っておりますけど、今回、再任用の方を発達支援室の担当にしたのには、経験があるとかという話は一応されたんですけど、それはそれとしても、再任用の方はたしか週に2日か3日しか出勤していないということを聞くんですけど、そこら辺は今回異動になったから、1人だから毎日になったのか、どうですか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

今回の対応はあくまでも緊急避難的なところがあります。再任用の方は非常勤という形で3日、最大延ばして4日ということで、ご本人さんにもお話をさせていただきましたら、ご本人さんは、私ども毎日でも行かせてもらうというような意識やったんですけども、任用形態から見たときには最大で4日ぐらいしか現在できませんので、1日の勤務時間は少なくなりますけれども、4日ぐらいを勤めてもらうような形で、今お願いをしているところでございます。

それから発達支援室のことですけれども、室長を中心にしながら、残った者が一致団結して頑張ってやっていただけるということも聞いておりますので、あくまでも緊急避難的な措置で再任用の方を回させていただいたということでございます。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） 発達支援室は昨年からアドバイザー2人の方と、そして新しい保育士が1人増えていますよね。だけど今回3人で一生懸命やってみえたんだけど、その人1人がアドバイザーがいなくなって、あと1人は学校担当の方ですよね。だから今回、保育園へ行ったアドバイザーのかわりに、今1日の時間を短くして4日来てもらえたらなということもお聞きしました。それで少しでも解消されるといいとは思いますが、今まで8時間一生懸命やっていたアドバイザーのかわりというふうにしては、しかも去年から来た人は、アドバイザーの資格もない人だし、そこら辺、専門知識だけではなく、人手不足も補えるのかしらという不安があるんですけど、いかがですか。

○議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

○生活福祉部長（松下 文丈君） お答えさせていただきます。

確かに人員につきましては、発達支援室の中で、どうしても2名おったのが1名になるということについては、多少影響もございますけれども、室長を含め、5人体制で発達支援室は行っておりますので、その辺、職員同士カバーしながら事業を運営していきたいなということで、実際やってございますし、職員同士協力しながら保育園、学校を分けずに、アドバイザーも両方兼ね合っておりまして、よろしく願いいたします。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） 5人体制ということは今聞いたんですけど、事務的なことはできても、療育相談とか、確実に子どもと向き合うことは、専門の知識がないとできないのかなという感じはしますけど、この件があってから、いろいろ発達支援室の保護者がどういう位置に置かれているかということを知ったんですけど、子どもの障がいについて悩んで、わらをもつかむ思いで発達支援室を利用しております。その保護者の信頼を裏切らないためにも、今まで以上の研修とか、保護者との相談とか、療育日などが設けられるような状態を絶対つくってほしいんです。だけどいくら5人体制があっても事務的なことはできても、療育の日程は相談日ができるのかなという不安は、私は今聞いておっても持ちました。

そしてまた先日、保護者から手紙をいただきました。「前のアドバイザーの方は子どもに熱心に向き合ってくれ、その思いがようやく子どもに通じたのか、子どもは心を開くようになり、やっと本格的な療育を進めていける段階でした。今回引き継いだ保育士の方と個別療育を実施できましたが、わが子は人に慣れていくことからの始まりで、療育をきちんとできるようになるには、これから長い道のりが必要です。障がいを持つ子どもと、その親への支援の大切さや難しさを理解していたら、今回の異動はあり得ません。」ここまでご父兄は言い切っております。

普通の健常者でも人見知りはする、だけど障がいの子もほど、なかなか人に慣れない、心を開かないという現状を私はこの手紙で知りました。やっぱりこういうことは二度とあってはいけないと思います。また、ほかからの保護者の声も聞いておりますが、この声を聞いて、自分はそういうところまで感情的にとというか、いつてなかったもので、本当に胸を詰まらせる思いをしたんですけど、教育長どうですか。異動に関して、こういう手紙が私に来たんですけど。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

保護者やお子さんに対して本当に苦しい思いをさせたなということ、私もそういうお声をお聞きしましたし、実際に本当に申しわけなかったなと思っております。

その中での苦渋の決断を町長部局にお願いしたという立場があります。私としては、保育園児の中で、それこそ、けがとか危機管理上の予測が大変された。このままほっておけば、いろんなところで問題が起きてくるであろうという思いでありまして、本当に揺れて、悩んで、いろいろ考えたというのが事実でございますけれども、最終的に町長部局にこのような決断をお願いしたというところがあります。

繰り返しますけれども、僕らからは言えないんですけども、発達支援室の今おるメンバーの中で、保護者の方の信頼を得るように、そして子どもたちが少しでも新しい担当の人になじんでもらって、そして安心して過ごせるようなことになってもらいたいと心から思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） さっき町長の答弁で、来年その方向で考えていきたいということがありましたので、新しく専門知識を得るためのあすなろ学園への派遣、本当に実施していただきたいなと思います。年度途中のこんな人事、二度と繰り返さないためにもよろしく願いして、次に移ります。

3点目の子育て支援、幼児教育について伺います。

子育て支援センターについてですが、再任用制度に伴い、定年の元園長の2名が子育て支援センターに配属されました。それに伴って、今までの臨時保育士はゼロとなりました。2名の任用のうち1名が8月10日付で発達支援室へ異動しましたが、残った1名の方は毎日出勤になったのですか。もしそうでない場合、出勤でない日は臨時保育士を雇われていますか。またセンター長、副センター長、再任用保育士が年休の場合は臨時保育士を雇われていますか。

次に幼保育園について伺います。

1つ目、2歳児担任3人のうち2人が同時に、4月いっぱいの退職と聞きました。同じクラスの担任2人が同時に途中退職とは、何か問題があったのですか。



2つ目に、8月の途中人事で発達支援室担当を東員保育園2歳児担任にした意図は何ですか。

3つ目、読書登山の件ですが、この課題絵本は各幼保育園に管理されていますか。

4つ目に城山幼保育園、いなべ幼保育園には期限付きのフリー保育士がいますが、他園にはいません。なぜですか。

5つ目に、東員幼保育園は19クラスなのに担任数が18とあります。残り1クラスは2人の副園長のどちらかが担任するのですか。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 上原議員からは、6点にわたりご質問をいただきました。順次、お答えをさせていただきます。

第1点目の、子育て支援センターの再任用職員1名の異動による臨時保育士を雇用するなどの対応についてのご質問にお答えをいたします。

再任用職員の異動による臨時保育士の雇用はしておりませんが、行事の準備などで、支援センターで人手が必要な際は学校教育課職員を派遣しております。また、年休等で保育士が必要な場合は、併設する三和幼稚園・みなみ保育園に協力を得るなどして、臨機応変に対応をしているところでございます。

2点目の、同じクラスを担当する保育士が2名同時に退職したことについてのご質問でございますが、退職した理由につきましては個人的理由であり、個人情報にかかわるものでありますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

3点目の8月の途中異動で町長部局職員を園の担任にしたことについてのご質問ですけれども、先ほどもお答えをさせていただきましたけれども、この異動につきましては、ある園で退職や長期の病気休暇に伴う緊急の対応が必要になり、年度途中に行ったものでございます。

4点目の読書登山の本の整備状況について、お答えをいたします。

昨年度、読書登山スタート時に、各園50冊1セットを配置し、園児数の多い神田幼稚園・東員保育園にはもう1セット配置をいたしました。また、図書館にも1セット配置をしております。この読書登山の事業につきましては、園や学校、また家庭においても積極的に取り組んでいただいております。今年度さらに各園1セットずつ追加をいたしました。今後につきましてもブックリストの増刷を含め、図書の実に努めてまいりたいと考えております。

5点目の園のフリー保育士について、お答えをいたします。

フリー保育士につきましては、教育保育条件整備のため、今年度から長時間保育の園児数が多い園に、期限付き保育士2名をフリー保育士として配置しております。私どもとしては、待機児童を出さないための担任確保、個に応じた保育教育推進の

ため、保育支援員の確保に全力を出しており、フリー保育士の全園配置までには、まだ進捗をしておりません。

最後に6点目の、クラス数に対して担任数が少ない状況の園について、お答えをいたします。年度途中の退職者が重なり、一時的にこのような状況になってしまいました。教育委員会といたしましては、人員確保に全力を出して取り組みましたが、新たな人員確保ができませんでした。そして、この状況を回避するため、8月に人事異動を行い、対応したところでございます。

ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） 支援センターへの再任用の保育士が出勤しない日も臨時保育士は雇っていないということでした。そして必要なときには、行事なんかがあれば職員を派遣する、そして年休のときなんかだったら、みなみ幼保育園の保育士が行くということでしたけど、考え方としては、発達支援室に行った再任用の方、1人分の人件費は、発達支援室に行った人の分は発達支援室が持つと考えますので、その分、支援センターで臨時保育士を雇う分はあると思うんですけど、そこら辺はいかがですか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 本当に保育士、予算では僕は可能かもわかりませんが、保育士を確保するところの大変厳しい状況がある。特に担当なんかは何日までにとか、もしやめられるとなったときの確保の場合には、もう必死になって、いろんなところに働きかけをしております。

私どもはほかの園でも、またやめられるとか、産休に入られる方もみえますので、この支援センターに臨時保育士を置くというよりは、私ども学校職員課の職員が行事等があれば行きますと、手伝いをさせていただきますと、そしてまた、隣に三和幼保育園がありますので、保育はできませんので、もし何かがあったときには何とか助けてくださいという了解を得ておりますので、そういうところで何とか進んでやって、ご理解いただければなと思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） 実は支援センターへ臨時で行っていた人が、何かご父兄から、先生このごろちっとも見えてくれん、先生たちがいなくて、再任用の方もみえない日なんか、なかなか相談もできやんし困ってますと。何で来てくれやんのよと。事情がわからんから、何で来てくれないんですかということ聞きまして、ということも聞きましたし、そして今の話では、みなみ幼稚園とか役場から行きますとは言われたんですけど、前の臨時の人からの声も聞いたし、子育て支援センター

にボランティアで行っている方とか、そしてご父兄が私たちにも、今までやったら先生に子どもを連れていった時に相談したけど、だけどこのごろはとても忙しそうだから、相談する雰囲気がない、だから今までみえた保育士さん、何で来てくれやんのというような声を聞いたり、また支援センターに行った時に子どものことを悩んでいると、前だったら理解して言葉かけをしてくれた。だけど今はそれができないから、何かイライラしているというようなこととか、電話をかけたけど、出てくれなかったから相談できなかった。やっぱりそういう声が聞こえてくるんです。そこら辺は今、センター長と副センター長はいますけど、それでは人手が足りないのかなと思っているんですけど、そこら辺の皆さんの声を聞くと、やっぱりちょっと聞いてみたい。そこら辺、どうですか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 今本当に生の声を聞かさせていただきまして、ありがとうございます。改善すべきところは改善しなければなりませんし、聞いておりますと、センター長と副センター長2名、正規を子どもは雇って入れておりますので、その人たちの対応もきちんと指導していかないとあかんというふうに思いました。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原君代議員。

○6番（上原 君代君） そういうところも少々あるかわからんけど、やっぱり現実的にそういう雰囲気、そうやってご父兄の方が思ってしまう、忙しそう、相談できない、やっぱりそこも大事にしてほしいと思います。

支援センターへ再任用の方が2人行って臨時の人を切ったということは、それはそれでよかったと思うんですけど、その後の発達支援室とか保育園とか、そういう異動などの変化にきちんと、そこら辺の対応が少しまずいところがあるのかなと思いますので、役場の人に来たからといって、相手は子どもです。事務的なことがもし残ったら、事務的なことは5時からでも、子どもが帰った4時半ごろからでもできますけど、子どもやご父兄がみえる時にはそれはできません。やっぱり書類ではなくて、相手は人間、子どもです。だからこういうところは本当によろしくお願ひしたいと思います。

また、東員町は16年一貫教育プランということで、おなかにいる時からの子育てを支援する、東員町の政策として、形だけでなく、中身のある子育て支援センターになるよう、よろしくお願ひします。

それと幼保の保育園についての1つ目の問題ですが、事情があるということで、詳しいことは言っただけませんでした。しかしチラッと体調のようなことは聞きましたので、しょうがないかなと思うんですけど、でもそれも、いくら期限つきであっても4月に担任をもらう時、正規と同じように担任するということは重要で

すので、そういう仕事の重要性はわかっているから、それだけの覚悟をして担任は引き受けると思うんです。体調も4月時点で大体わかっておるはずですよ。それが2人一遍というところは、やっぱり自分としては不思議ですし、そしてまた、2人がそういうことになるということは、同じクラスの担任2人が同時にということも不思議ですので、特に2歳児以下は保育士に慣れるまでが、やっとなら、1カ月で慣れるころかなと思います。だからそういう人が2人重ならないように、保育士も途中でやめんならんようになるんじゃないかと、人間を大事にする、子どもを大事にする、保育士を大事にする、そういうことを進めていってほしいんですけど。体調が2人でというのは、4月時点もあるから、そこら辺どう考えますか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 私も議員がおっしゃるとおりであると思います。担任をする覚悟というのはありますけれども、やめられたのは、あくまでも個人的な理由で、この場で皆さんに説明する内容ではありませんので、どうぞご理解をいただきたいなと思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） はい、わかりました。

2つ目の発達支援室の保育士を何で2歳児へ持っていったのかということで、余りはっきり副園長のかわり、何かそれは聞き取りの時にチラッと聞きましたけど、そこら辺で私は、あの園には2人の副園長がいたから、1人が病気で入院されたとしても、もう1人の副園長がおります。発達支援室の重要な担い手である専門的な知識を持った保育士なんですから、さっきも発達支援のところで言いましたけど、もう1人副園長はおるのに何でこの人持っていったのかなと。本当に保育士として必要なら、昨年から発達支援室に来た人はまだ資格もありませんし、1年でまだまだ保育園のことのほうがよくわかっている人だったはずなんですけど、そういうことは考えなかったですか。副園長は関係なくて、ただ担任というのなら、発達支援室に去年来た方を異動させるということは考えなかったですか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 私どもが最終決断を、もうどうしようもないと思いましたが、副園長格の方が長期に療養されるということで、私は町長部局のほうにお願いに行きました。これも含めて個別の人事異動に対して、この席で、私がより正確に言う方がいいのかどうかというのは、ちょっと私自身もどこまで言っているか、わからないところがありますので、先ほど答弁をさせていただいたのが経緯でありますし、私どもも園も発達支援室もよりよく、それからこれは支援センターも絡んできたことですので、何とかマイナスの影響が出ないように、今後それぞれが頑張っていかなければならないなと思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） フリーの人も見えるから、そういう人を城山と稲部でしたか、要りますので、そういう人も対象者としてはあるがなという、何かまだ納得はできませんけど、次に移ります。

読書登山の件ですけど、各園校に1セット、また今年も1セットということ、それと図書館にも置いていただいたということで安心はしました。

ただ、これは多分保育園などに在園していない親子かなと思うんですけど、図書館でもなかったのかな、1セットだから、本屋さんで立ち読みをしてシールを貼るんだというようなことも聞いたりして、それとそれだけ数が足りなかったのか、もらえないというか、私は見たことないのでですけど、結構高かったりして、そういうのが不足しているというようなことを聞いたんですが、そこら辺はどうですか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

読書登山はブックリストといひまして、低学年用、中学年用という本がありまして、ちょっと今持ってないんですけども、その本の中に読んだら貼れるシールがあるんです。そのブックリストは新しく入園された方には1冊、毎年配付をさせていただいておりますし、読書登山が始まった時には、全ての園、小学校6年生までみんな配付をいたしております。高いというか、1冊600円いくらしますので、その千何人分という予算を投入をさせていただきました。

読書登山の始まった当初は、僕は競争じゃないんですよと、本を好きになってもらうために、ゆっくりでいいからと言っておるんですけども、競争みたいに少しなってしまうと、幼稚園の本は1冊しかありませんので、図書館へ行ったり、東員町の図書館だけではなくて、桑名や多度の図書館にも本を借りにいったり、私どもも、できる限りセット数を増やし、それぞれの園校に置くというのがありますけれども、もしよかったならば本屋さんで、お小遣いをためて買ってもらうのもいいということで、イオンの本屋さんとか何かにも読書登山コーナーとして設置というか、置いてもらうような形で今進めております。

できるだけ増やしたいと思ひまして、なかなか予算もかかっておりますので、今年度さらに1冊増やさせていただいたというのが現状でございます。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原君代議員。

○6番（上原 君代君） 多分、保育園では、そんだけきちっとやっておりますから、これは私が聞いた話は、保育園に入っていない親子かなと思ひますけど、そういう子たちにも、さっき言った何か高いとかいうブックリスト、そういうのがどういうふうに入手するのか、ちょっとわかりませんが、そういう子たち

までもらえるような、余分に見えるような予算を来年度にはぜひつくって、余分これをつくってほしいかなと思います。

それともう1つ、フリーの件なんですけど、今回、私が調べた時点では2つの園しかなかったんですけど、こういう事態の時に各園に、長時間の多いところと言いましたけど、長時間だけではなくて、よく未満児は途中、待機児童は東員町は本当にいいと思うんですけど、待機児童を出さないということで、途中で人数が増えた場合、クラスの増設をしていただきます。そういうときに保育士を探すのがえらいから、年度初めにフリーを各園に置いてあれば、そういう人を増設したクラスの担任にすることが簡単にできると思いますので、そこら辺、予算を各園に1人というのは結構大変ですけど、さっきの読書登山と同じように、予算をフリーの保育士をぜひと思うんですけど、そのあたりはどうですか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 今年度、議員がおっしゃるようなことも想定し、クラス増とか、何かあった場合ということで、フリー2名を配置をさせていただきましたが、本当に集めるのが大変なんです、募集するのが。募集というか、来ていただくのが。私どもはとにかく4月当初の待機児童を出さないということで、保育士の方の確保というのをまず一番にやっております、今後もそれは続けたいと思うんですけども、まず優先順位というならば、4月に待機児童を出さないということをまずやっていきたいということと、それから今のところですけども、2名のフリーの方の確保というのを継続してやっていきたいなと思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

○6番（上原 君代君） 今回のフリーでよかったなと思うのは、期限付きのフリーとなっておりますので、正規と言いたいですけど、そこまではいなくても、各園に期限付きということであれば、人手不足も普通の最低賃金よりちょっといいぐらいの賃金でなくて、期限付きでちゃんと配置してもらえれば人手も確保できるんじゃないですかと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

1人ずつフリーがおれば、いろんなことが、増設した時もそうだし、今みたいに病気になった時もそうだし、本当に対処が、必死で探さんならなくて、ちゃんとその園の事情がわかったフリーがおれば簡単に進むと思いますので、よろしくをお願いします。

大変ですけど、東員町の子育て支援は一定の評価をされております。最近だれかの質問に対して、40歳未満は増えているんだということも聞きました。私も子育て支援ネットで、ボランティアで行ってますけど、結構子どもは来てます。ミニ団地に引っ越しする人は多いです。だからやっぱり一定の評価はされているところで自信も持ち、またそれを裏切らないためにも、今日私いろんなことを言いましたけ

ど、よろしくお願ひして、今日の質問はこれで終わります。